

モデル棟くみ上げに挑む

米子で 担い手事業 大工や職人育成目指す

本年度の「地域に根ざした木造住宅施工技術体制整備支援事業」の一環で、大工や職人などを育てる「担い手育成事業」が12日、米子市富益町のミヨシ産業富益倉庫で行われた。参加者らは実際にモデル棟の組み上げに挑戦し、軸組工法の仕組みを学んだ。

育成事業は、全国住宅産業地域活性化協議会が大工や職人の雇用や新規就業者の拡大を目的に実施。3年目の今年は全国11地域で展開している。

山陰では本年度、住宅産業に関する企業や団体でつくる山陰すてきな家づくりの会が初めて参画。会員企業の若手社員6人が座学や実習を通じ、木造住宅の工程や作業内容、軸組の建て方などの技術を習得する。

講習会は7〜12月の全11回。6回目この日は建て方の実習があり、参加者は

通し柱や管柱などを設置し、モデル棟を組み上げる参加者ら。12日、米子市富益町のミヨシ産業富益倉庫



1級建築大工技能士の指導を受けながら柱やはり、桁を設置するなどしてモデル棟を組み上げた。

米子市日原の小森裕斗さん(23)は「普段は建材の営業をしていて、大工さんに関わる人が多い。大工さんがどんなふう建材を使

うのかを知ることができたので、今後の仕事に生かしたい」と話した。同会事務局(ミヨシ産業)の奥野圭

一郎さんは「大工のなり手不足と高齢化の問題がある。大工の裾野を広げるきっかけになれば」と期待した。

(岡野耕次)

将来の住宅業界担い手育成

若手6人 建築実習

米子 子 手ほどき受け技術学ぶ

地域で建設業務に携わる・ミヨシ産業 が12日、米子市富益町のミヨシ産業富益倉庫で木造住宅の建築実習を行った。会員企業の新入社員ら約150社、事務局

・ミヨシ産業 が12日、米子市富益町のミヨシ産業富益倉庫で木造住宅の建築実習を行った。会員企業の新入社員ら約150社、事務局



屋根部分の取り付け作業に取り組む参加者

家づくりの会は、一般社団法人全国住宅産業地域活性化協議会の正会員。全国的に深刻化している大工、建築職人の高齢化と人材不足を受けて本年度、初めて担い手の育成事業に乗り出した。

参加者は、県西部で今年建設業界に就労した20、30代の6人。育成事業では、7月から週末を活用して約8時間、建設現場での安全管理や住宅材料に関する座学、材料運搬、住宅の土台づくりの実習などに取り組んだ。

この日から、実際に住宅を建設する工程に入り、木造2階建ての住宅の外枠作りを中心に展開。6人は指導員から手ほどきを受け、家屋を支える基礎の柱を建てながら、屋根合板の取り付けも行い、くぎとビスを慎重に打ち込み、各部分を固定した。

実習は12月まで続く予定で、住宅の外壁施工や階段

の取り付け作業、防水処理などを学んだ後、解体作業を行って終える。

参加した福谷修平さん（30）は「家の建設を知識だけでなく体験として得られるのは大きい。大工の大変さが改めて身に染みた」と話した。

（中島諒）